

東海・北陸・近畿ブロック合同 障害児教育学習会

ともに学び、ともに育つ
地域と学校づくりをすすめるために

7月31日（金）・8月1日（土）の両日、三重県志摩市で障害児教育学習会が開催され、本県からは9名が参加しました。

全体会では、まず日教組障害児教育部の服部宗広さんから、来年度に施行される「障害者差別解消法」にともなう合理的配慮についての報告がありました。その後「NPO法人ピアサポートみえ」の杉田宏さんによる記念講演が行われました。杉田さんは、障害がある子に自らの権利を守る学習やその機会はどのように提供するのか、また教育や福祉の分野で障害のある人を困り込ませること、失われていくものがあるのではないかと、障害者の立場から問題提起されました。そして、障害のある子もない子も学校や地域で人とどのように関わるかを学ぶことが大事である、と強調されました。

その後、4つの分科会で各府県の実践発表及び研究会が行われ、どの分科会も熱心な討論がなされました。

夜の交流会では、他県の参加者と情報交換を行い、和やかな食事会となりました。



記念講演

演題「 地域でともに生きること、
地域の学校でともに学ぶこと
～さまざまな出会いを通して～ 」
NPO法人サポートみえ 杉田 宏さん

<参加者の感想>

- 杉田さんの話から「何が合理的配慮で、何が合理的配慮でないのか」の見極めが重要であると思った。場合によっては「ありがた迷惑」になるものがある。
- これまで障害児本人の成長や学習について考えることが多かったが、今回の学習会では、周囲の子どもたちをそだてることの大切さに気づかされる内容だった。分会でさっそく学習会の資料を回覧したり内容について話をしたりした。
- 障害者理解教育について関心があったので参加した。「理解」させようとするのではなく子ども同士の関係性を気づいていく場を設定していくことが重要だと感じた。
- 支援体制の充実は必要であるが、児童の実態をふまえ、保護者の理解のもと、その子の生きる力を伸ばしていける「善の環境設定」考えていかなければならないと改めて感じた。